団体名　一般社団法人あのね

事業名　こどもの居場所「あのねくらぶ」

事業概要

- ひとり親家庭を中心とした、居場所のニーズの高い子どもを対象とする。
- 家庭的な雰囲気を持ち、買い物や料理も一緒に行う食事会や学習支援を実施し、遊びの場または休息の場ともなる居場所を提供。
- 家族丸ごとのサポートを提供するため、保護者のための個別相談にて生活や子育て全般の相談に応じる。家庭訪問による交流も行う。

解決すべき地域の課題

- 子ども会が廃止になる町会が増加しており、地域と子どもの繋がりが希薄化していくことが懸念される。
- 年齢を超えて継続的に子どもが繋がることができるような、学校でもない家庭でもない「第三の居場所」の確保が必要。

活動状況

≪あのねくらぶ≫

- 毎週水曜日15～19時半、第2・第3土曜日10～14時（または15～19時半）の月6回活動。
- 子ども25名が登録（9割がひとり親家庭）。
- 参加費：無料
- 月2回以上の食事会で、食材の買い出しや料理を一緒に行い「食育５つの力」を育むことで、弧食の防止を図っている。
- 宿題や個別の学習課題についての指導及び学習支援を実施。
- 自由に読書をしたり、おもちゃやテーブルゲームで遊べるスペースを提供するだけでなく、遊び相手や子どもの話を傾聴し相談相手となっている。

≪あるのん≫

- ひとり親家庭を中心とする60世帯以上に、食品や衛生用品、文具などを無償配布（月3～５回実施）。

≪個別相談≫

- 60世帯以上の地域のひとり親家庭と繋がり、生活保護や奨学金の申請相談、転居支援などの家庭の問題を包括的かつ個別的にサポート。

【活動の様子】

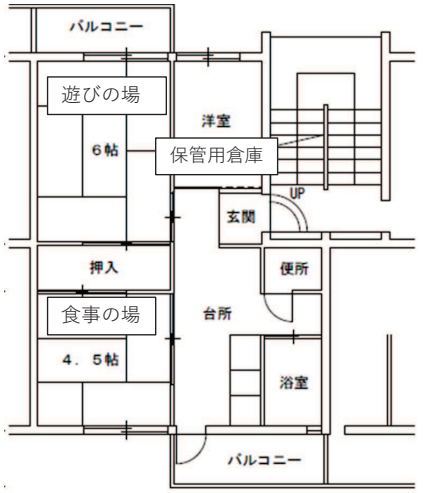
活動に参加している利用者の状況（市営住宅の住民および近隣住民）

- 生活困窮等の課題を抱える子どものいる家庭を対象としているが、SNSによる情報発信や口コミによって近隣住民からの問い合わせが多くなり、登録者が増加している。

住戸の活用状況

- 住戸内の改修は行わず、和室にはフローリングマット、廊下には防音対策としてジョイントマットを設置。
- 利用者に活動場所をわかりやすくするため、ドアにポスターを貼っている。
- 6帖の和室は遊びの場、4.5帖の和室は食事の場、洋室は寄付していただいた食品や衣類などの保管の場として生活空間を分け、日常生活をイメージしやすくし、安心してくつろげる場を提供している。

玄関及び活動場所の状況



「市営住宅のコミュニティ活性化事業」の利用による変化

- 市営住宅という生活の場で活動を行うことにより、アットホームかつ生活に根差したサポートを提供できるようになった。
- 活動スペースが拡大したことで、受け入れ人数が増加し支援内容の拡充が可能になった。そのため、予約制のあのねくらぶ活動中に、同時にフードパントリーを実施できるなど、限られたスタッフでも最大限の支援ができるようになった。
- 周辺住民と子どもの間で、声掛けや見守りなどによる世代間交流も増えている。
- 家庭的な雰囲気の中で自発的な活動を促すことにより、靴をそろえる、手洗い、よく体を動かす、しっかり食事を摂る、お手伝いを進んでする、イスに座って宿題をするなど、基本的な生活習慣を子ども同士で声を掛け合いながら実践できるようになり、微力ながら子どもたちの健やかな成長に寄与していると感じる。

活動団地の場所

【団地名】 高殿住宅　3号館　101号室

【所在地】 旭区高殿6丁目18番